

大久保地区・地域だより

# No.98 さわやかあおくぼ

2022年3月31日発行 編集・発行 大久保地域センター管理運営委員会広報部 03-3209-3961



時代とともに  
變化ゆく  
大久保



大久保地区・地域だより

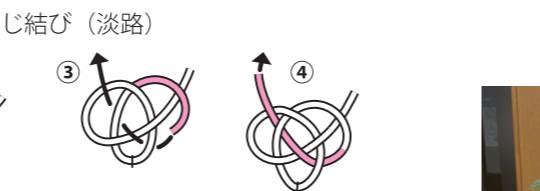
# No.98 さわやかあおくぼ

2022年3月31日発行 編集・発行 大久保地域センター管理運営委員会広報部 03-3209-3961

## 「水引工芸にチャレンジしよう」 12月7日(火)

講師：園部 洋子（水引作家）

基本の「梅結び」を習得して、新年の祝箸袋、お年玉用ポチ袋、日常使いのヘアピンやアクセサリーなど多彩なアレンジに生かしましょう！



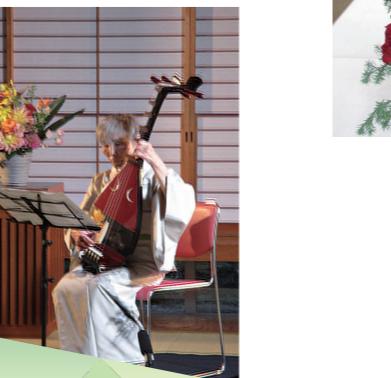
## 「琵琶がたり」 1月16日(日)

奏 者 横井 旭壽

演 目 「花の白虎隊」

「壇ノ浦悲曲」

ナレーション 加藤 登美子



## ■ 行事予定

令和4年度は盆踊り教室・手打ちうどん教室・水引工芸・朗読会・囲碁大会・味噌づくり教室・フラワーアレンジメント教室などを予定しています。コロナが少しでも収まり開催できることを願っています。

ポスター等でお知らせしますのでぜひ、ご参加ください。

## ■ 編集後記

地域だより「さわやかあおくぼ」98号が無事発行でき、ほっとしています。次号は何をテーマに取り上げようか、思案中です。

問い合わせ

大久保地域センター

TEL 03(3209)3961

FAX 03(3209)3962

## 「朗読会」 11月23日(火)

出演：高桑 和  
金沢 洋子（戸山朗読会）



## 「フラワーアレンジメント教室」 11月29日(月)

講師：森 美智子（デイドリーム）



## 大久保地域センター事務局から

### お知らせ

#### オンライン五月まつり 2021 開催

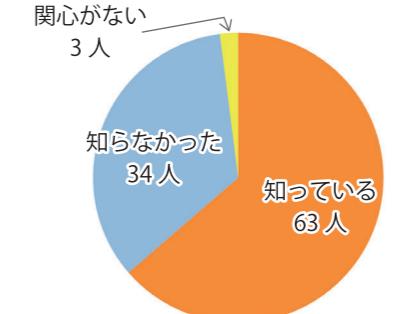
令和4年3月後半、大久保地域センターホームページ上に『オンライン五月まつり2021』の専用ページを開設。例年の五月まつりや芸能まつりの参加団体によるダンス・合唱・民謡・詩吟・新舞踊・楽器演奏などの発表と、パッチワーク手芸・創作工芸などの作品展示を動画コンテンツとして楽しんでいただきました。

4月以降も視聴できるコンテンツを掲載しておりますので、ぜひご覧になってください。



大久保地域センターホームページ  
<https://ookubocc.tokyo/>に  
アクセスして左記のバナーを  
クリック！

\* ジェンダーギャップ指数が日本は156ヶ国中120位だったことをご存じですか②



アンケートのジェンダーギャップ（男女間格差）について予想以上のたくさんのご意見をいただき、驚きと共に皆さまの関心の深さを感じました。

すべてのご意見を載せることはできませんが、皆様の言葉の中に見えるのは、性別を超えて一人の人間として尊重され、生きがいを感じる社会であってほしいと願っている、ということではないでしょうか。

### 70代以上

- ・保育園などの送り迎えに父親の姿を見る。社会は変化していると思う。(男性)
- ・男女差だけでなく、貧富・国籍・人種などの格差が大きい。自分自身の偏見に気付くこと。(女性)
- ・男女間格差は当然と考えている高齢男性は多いが、若い男性は？(女性)
- ・女性のがまん強さが日本経済を支えてきた、と思っていたが、今は女性も政治や経済の中に取り組むことが必要を感じている。(女性)

### 60代

- ・先進国なのに男女間格差がありすぎる。トップの考えが変わらなければ世の中は動かない。(女性)
- ・同等ということは同じということではない。男性も女性も一人ひとり個性を生かし、理解し合うことが大切だと思う。(女性)

### 50代

- ・女性がどんどん社会に出て地位向上を目指すこと、能力で評価されることは大賛成。ただそのように生きてこられなかった世代もあることを知ってほしい。(女性)
- ・孤立しない、させないことが男女間格差を解消する。そのためには地域ぐるみの応援が必要。(女性)
- ・それぞれの価値を認める社会になつたら良いと思う。みんな違つてみんないい、が理想。(女性)
- ・コロナ禍の対策で、世界のトップ女性（ニュージーランド、ドイツ、台湾等）の発言に説得を感じた。日本のジェンダーギャップ指数の低さは政府等のトップが男性ばかりが要因？かも。(女性)

### 40代

- ・女性でもキャリアアップを目指す人、男性でも子育てに生きがいを感じる人がいると思う。社会全体の意識、理解、制度が変わっていくことを望む。(女性)
- ・職場や家庭、社会での女性差別は根深いと思う。が、女性の甘え、それを許す男性（善意で）にも問題がある。お互いに自立し、認め合える社会でありたい。

### 20代～30代

- ・もっと女性の権利を認めてほしいと言うより、性別に関わらず生きやすい社会を作る、といった考え方の方が共感できる。苦しんでいるのは LGBT も含め女性だけではないと思う。誰もが性別にとらわれず自分らしく生きることが一番、ではないか。(女性)

## よく耳にするカタカナ用語

◎ジェンダー 身体的な性別に対して、社会的・文化的役割として作られる男女の性別のこと

◎ワーク・ライフ・バランス 仕事も生活（プライベート）もバランス良く充実させる働き方・生き方

◎フェミニズム 女性に対する差別や不平等の解消を主張する考え方

◎LGBTQ L レズビアン / G ゲイ / B バイセクシャル

T トランスジェンダー 生まれつきの身体的性別と自分が認識する性別が異なる

Q クエスチオニング（クイア） あえて自分の性自認や性的指向を決めない生き方

◎SDGs（持続可能な開発目標） 世界にある環境問題・差別・貧困・人権問題といった課題を

世界のみんなで2030年までに解決していくという計画、目標のこと

◎マイノリティ 少数、少数派、多民族国家における少数民族や性的少数者を指す。対義語はマジョリティ



# 【国際都市】 大久保あれこれ

江戸時代の大久保村は、つつじの名所としても知られるのどかな農村でした。明治40年頃には、武蔵野の面影が残る田園風景に惹かれて、国木田独歩、島崎藤村、前田夕暮、岩野泡鳴、戸川秋骨などの多くの文人が移り住んでいます。夏目漱石も、大久保で家を探していたそうですが、「文士村」として知られています。

小泉八雲ことラフカディオ・ハーンも、ほぼ同じ時代に、大久保に越してきました。庭の竹藪でうぐいすがさえずるような静かな広い屋敷で、名作「怪談」はここで書かれました。また、お隣の大久保小学校の父母会に呼ばれ、「西洋と日本の家庭教育」と題する講演も行なったそうです。残念ながら、ハーンは、2年後にこの屋敷で亡くなります。

その頃、清から来日し、東大久保村（現新宿七丁目）の、蟹川（現在は暗渠）のほとりの植木屋に下宿していたのが、若き日の蒋介石でした。坂を登って椎木坂（旧大久保通り）を越え、陸軍戸山学校（現戸山ハイツ）まで軍楽隊の演奏を見に行っていたといいます。大正時代の初めには、日本に亡命中の孫文が、大久保百人町（現百人町）にあった、庇護者・梅屋庄吉邸（映画の撮影所でした）で結婚式を挙げています。梅屋邸の近くには、その頃、外国人音楽家も多く住んでいて、東京音楽学校（今の芸大）で教えたり、と、日本の音楽教育の礎を築きました。

このように、大久保には、明治・大正時代からすでに多くの外国人が住んでいたことがわかります。国籍や職業を問わず、大久保は、昔から、様々な人々を受け入れてきた、懐の広い町、常に新しい姿を見せてくれる町です。

戸山ヶ原（現戸山公園大久保地区・西戸山公園）の西側、山手線の線路沿いかと思いますが、戦前にはアルセーヌ・ルパンの隠れ家があり（「黄金仮面」）、その後、何と怪人二十面相に受け継がれます。もちろん、あくまでも、小説家・江戸川乱歩の創作ですが、フランスの大泥棒までもが潜んでいた町、などと想像すると、大久保のあまりの懐の広さに楽しくなってきます。



文化通り

## 大久保の未来を見据えて

商店街を歩けば外国の店が軒を連ね、耳に聞こえてくるのは多言語の会話、それが私達の街大久保です。新宿区の人口に占める外国人の割合は11パーセントですが、大久保に限定すれば30パーセントから40パーセントと言われています。このような街で、外国の方達と共に生していくためには何が必要か、問題に取り組んでおられる大久保通りの商店街の方にお話を伺いました。

### ● お互いを知るためにコミュニケーションの充実

大久保は昔から外国人が住んでいて、比較的偏見がないところだと思っています。ただ国情が違うので、公共のこととか生活習慣の違いで問題はありますが、根気よくコミュニケーションをとれば解決できることです。ルールを守らないのは外国人に限ります。まず顔を合わせてお互いを知ること、同じ街に住む同じ人間ですから。街が発展し、商店街が活性化されるのは私達の願いです。日本人の店のオーナーは高齢化が進んでいますし、活性化には若い力が必要です。

### ● 「インターナショナル事業者交流会」の発足

きっかけは韓国人の事業者からの一緒に何かできないか、との呼びかけで始まりました。それが2017年に創設された4ヵ国会議（インターナショナル事業者交流会）です。ベトナム・ネパール・韓国と日本の事業者が参加して、2,3ヶ月に1回ほど開催しています。参加者は20人位、少数ですが女性もいますよ。参加する外国の方達は、40代くらい、若くて活気がありますね。課題は、お互いの間にある問題点とか、商店街の活性化とか、住民との問題とか様々なことを話し合います。商店街のすべての人達がこのように交流に賛成しているわけではありませんが、これからも多文化社会が広がっていくのは避けられません。少しずつでも理解を深めながら変わっていかなければならぬでしょうね。

2019年の夏にはイベント（新大久保フェス）を開催しました。ベトナムやネパールの若い人達がお互いに活躍しましたよ。各国の食べ物や、文化の紹介、音楽の演奏などとても盛り上がりました。

### ● いつか本当の国際都市に

今はコリアンタウンのように言われている大久保ですが、将来はアジアだけでなく世界中の地域から料理や特産品、文化などを発信していく街、ここに来れば様々な出会いがある、本当の意味での国際都市大久保になることを願っています。



大久保通り

大久保地域は多国籍の人達との共存の歴史は長い。長年、この地域に住み続けている人達の思い、勤務地としてこの地域で仕事をしている人達の思い、このアンケートによつて、様々な声が聞こえました。自分の生活をいかに心地よく過ごしていくか、それを追求していくのは当然の欲求です。その欲求こそが、よりよい街づくりの原動力となつてゐるのではないか。住みにくいという感覚も、この清潔感を持つ大久保地域の、どこにもないであろう個性として受け入れていこうと常に思うところです。

# 大久保のまち・国際都市と呼ばれて

日本語国際学級という名前で開設されたのが32年前の平成2年です。都内では学級としてあるのは現在23ヶ所。本校は、日本語がまだうまく使えない子達を特別に教える、その先駆けなんだと思いません。

また設置学級がなくても、日本語教育が必要な子が5人以上いる、「加配」と言って特別に申請して認められると、教員を配置してもらう制度もあります。区内の小学校には4、5校に加配されています。大久保小学校の日本語国際学級には、現在、約30人の児童がいて2クラス、3名の教員がいます。基本的に、その児童の保護者の許可をいただいた上で、国語の時間のみ、別枠で日本語の基礎的なことを教えています。その時間以外は、それぞれのクラスで学習し、楽しく学校生活を送っています。

英語の子はフィリピンくらいで、もともとは韓国、中国の人が多くたのですが、近年、ベトナム、ミャンマー、タイ、バンダラディッシュ、ネパール等の人達が増えてきています。日本語が全くゼロで入学てくる子どももいますが、その子達には、別枠で教育センターの国際理解教室を派遣してくれる先生と一緒にマンツーマンで日本語を学ぶことができる制度もあります。「初期指導」という名前で、基本的に母語と日本語が話せる先生が来てくれます。とはいって、それら一人ひとりがクラスの一員です。それで日本語学級のメンバーですよ、という認識を子ども達はもっています。

子どもの感覚では、どの国の人、という認識はあります。それは日本が外國か、という枠組みはありませんね。みんな違っているのが当たり前で、別に日本人という括りの中で生きているわけではない。人として生きているんです。

現場でみると、まさに、子ども達自身が、全部みんな違うのが当たり前、だけどみんな日本語でコミュニケーションをとっているから、どこの国かは関係ない。みんなお互いにわかりあっている。そんなことは置いておいて、ちゃんと人間関係ができるていると感じます。

日本語国際学級には、現在、約30人の児童がいて2クラス、3名の教員がいます。基本的に、その児童の保護者の許可をいたしました上で、国語の時間のみ、別枠で日本語の基礎的なことを教えています。その時間以外は、それぞれのクラスで学習し、楽しく学校生活を送っています。

英語の子はフィリピンくらいで、もともとは韓国、中国の人が多くたのですが、近年、ベトナム、ミャンマー、タイ、バンダラディッシュ、ネパール等の人達が増えてきています。日本語が全くゼロで入学てくる子どももいますが、その子達には、別枠で教育センターの国際理解教室を派遣してくれる先生と一緒にマンツーマンで日本語を学ぶことができる制度もあります。「初期指導」という名前で、基本的に母語と日本語が話せる先生が来てくれます。それで日本語学級のメンバーですよ、という認識を子ども達はもっています。

子どもの感覚では、どの国の人、という認識はあります。それは日本が外國か、という枠組みはありませんね。みんな違っているのが当たり前で、別に日本人という括りの中で生きているわけではない。人として生きているんです。

現場でみると、まさに、子ども達自身が、全部みんな違うのが当たり前、だけどみんな日本語でコミュニケーションをとっているから、どこの国かは関係ない。みんなお互いにわかりあっている。そんなことは置いておいて、ちゃんと人間関係ができるていると感じます。

● 大久保小学校の多国籍児童の現状は？  
● 大久保小学校山貝正海校長先生に、お聞きしました  
● 多文化を受け入れ、ともに歩もう、ともに羽ばたこう



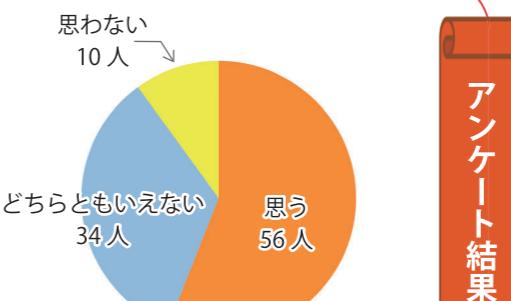
山貝 校長

● 多国籍児童がたくさんいる、ということを保護者の方はどう感じていますか？

大久保小学校の、というか教育委員会も含めてのスタンスとしては、学区内に多国籍の子ども達がたくさん住んでいます。その子ども達は学校に来るのは当たり前なんですね。そこで困ったことがあります。何とか困らないようにする、ということだと思います。

この保護者の方の話を聞いていて、非常にポジティブで、フレンドリーで、多国籍の子ども達が在籍していることを、むしろ誇りに感じている方もいます。地域協働学校やPTAの活動の中でも二ヵ国語で本の読み聞かせをしてくれたり、「○○さん、ちょっとと韓国語でこれやって」との活動があつたりしています。

### \*住みやすい街だと思いますか①



アンケート結果  
前号のつづき

● 大久保通りの混雑と観光客のマナーの悪さに不満。  
● ゴミゴミした街、混沌とした街、そんな印象しかない。  
● 20年以上住んでいるので、雑多な文化を持つ、この街には愛着を感じる。  
● 静かな街ではないが、多国籍大型店舗等の存在で利便性は大きいに評価。

● 大久保地域は大きく変化し、外国人が増え、観光地化、それによって治安が悪くなつた。  
● 手作りパン屋さん等、昔ながらの風景が失われていつて寂しい。  
● 大きな病院、交通網、公共施設、大型店舗等の存在で利便性は大きくなつた。  
● 我々は、子ども達の成長の一時期を責任をもつて預かり、次世代にバトンを繋いでいくという立場なので、歴代の校長先生の思いが繋がっていくのが良いのかな、と思つてい

今、わからなくても良いけれど、大きくなつた時に振り返つて、「ようこそ」と言える学校であり続けたい。それは、10年経つても変わらない、今と同じであつてほしい。  
先日、朝日新聞が本校の大久保つじを守る活動をとりあげてくれました。伝統ある大久保つじを守る活動を、地域愛とか地域の特色や伝統を多国籍で、いろんなルーツをもつ人達が大事に守つていいこうとしていることに、とてもおおきな意味がある。このコメントは、私達の気持ちを言い当てています。

今、わからなくても良いけれど、大きくなつた時に振り返つて、「ようこそ」と言える学校であり続けたい。それは、10年経つても変わらない、今と同じであつてほしい。  
先日、朝日新聞が本校の大久保つじを守る活動をとりあげてくれました。伝統ある大久保つじを守る活動を、地域愛とか地域の特色や伝統を多国籍で、いろんなルーツをもつ人達が大事に守つていいこうとしていることに、とてもおおきな意味がある。このコメントは、私達の気持ちを言い当てています。